

新生「向陽プレスクラブ」総会及び懇親会議事録

司会進行 岡林敏眞 議長 中城正堯 書記 永森裕子

1. 日時 平成22年7月25日(日) 総会 午後1時—午後2時半 懇親会 午後2時半—4時半

2. 場所 アルカディア市ヶ谷 7階 吉野の間

3. 出席者 総会16名 懇親会17名

岡林幹雄(26回) 大町玄(30回) 中城正堯(30回) 横山禎夫(30回) 岡林敏眞(32回) 吉川順三(34回) 岡西滋夫(35回、懇親会のみ) 森田隆博(37回) 黒木健司(37回) 岡林哲夫(40回) 鶴和千秋(41回) 藤宗俊一(42回) 加賀野井秀一(44回) 永森裕子(44回) 中井興一(45回) 宮川隆彦(46回) 水田幹久(48回)

以下、4から7の事項は、岡林敏眞作成の総会議案書にそって検討された。

4. 準備会からの経過報告

岡林敏眞より報告。一年半以上前、活性化の話が再燃。35回公文敏雄尽力で元向陽新聞部員の名簿作りに着手。今年3月より、有志で2、3回準備会を行う。会の活動内容、会則、ホームページの立ち上げなど、を相談。また4月に岡林敏眞が土佐高を訪問。元土佐高教員の門田美和氏(38回)の協力の下、図書館に保存してあった向陽新聞を調査/確認。目下電子化保存の作業を高知の業者に依頼する同時に未保存の号を探索中。

5. 議長選出。本日の議長として中城正堯を選出。

6. 新生向陽クラブ入会者41名(7月25日現在)、

本日の総会出席者は16名、委任状数は25名。よって、会員の過半数の議決権数に達し総会は成立した。これにより、議案は出席者の賛成多数であれば可決されることになる。

7. 議案審査

第1号議案 向陽プレスクラブ会則の制定

会則の要旨を岡林敏眞が説明。以下の様に多岐に渡る活発な意見が続出した結果、**改正案を全員一致で承認**。

森田：会長、役員他に会則で顧問を設定したらどうか。

岡林(敏)：細則に顧問はある。気楽な形で意見が言ってもらえるようこの案にした。

大町：顧問はいらないのではないかな。

森田：顧問をつけた方が座りが良い。錚々たる先輩方もいらっしゃることでもあるので。

中城：顧問の選出は、「第4号議案：細則の制定」で検討をすることにする。

森田：地元高知にも拠点が必要。高知支部長を置くとか。

横山：何をやるか決まってから、高地支部を設けるほうがよい。

黒木：高知にはOBがたくさんいる。土佐高は高知にある。高知の連中が集まるシステムをおいた方がよい。

宮川：細則の検討で話そうと思ったが、もう一度土佐高に新聞部を復活するのを活動目標にしたらどうか。細則の中で目標を作って高知支部の形を作っていく。

黒木：会則の目的には具体性がない。新聞部再生の為にはエネルギーがいる。土佐高の先生を啓蒙していかないと新聞部の復活がない。土佐高の文化部の活性化を前向きにはかかっていきたい。

中城：準備会の段階で、新聞部の復活に関しては、色々な意見があり、この会則の形になった。

水田：新聞部の形を作ろうとすると、学校の広報になる。生徒側に、言論活動をする姿勢がないのに目的にするのどうか。

横山：この会は親睦としては良いが土佐高に新聞部を復活、というのはどうか。向陽新聞は、学校側を批判する新聞だった。御用新聞ではなかった。我々が母校に新聞部を復活させるというのはおこがましい。

大町：何をやるにしても、これからどういう方向に行くにしても高知に支部を設けることは大切。準備会で話をしたというが、会の目的は、親睦会だけで良いのか。今日こそ会の目的についての議論をすべきではないか。

中城：準備会では「母校の発展に貢献」以上に明確に打ち出すことはしないことになった。

岡林(敏)：小村現教頭に4月に土佐高であった時、小村教頭より以下の話があった。「現在の土佐高は文化部活動が下火で茶華道部とブラスバンド部のみ。パソコンを全員が使える教室があるが、ソフト面が不足。各方面で活躍する卒業生からメッセージを発信してもらい、生徒からも発信するなどして、ぜひとも文化活動を掘り起こしていきたい。」

水田：向陽プレスクラブが、土佐高に言論活動の機運が高まる窓口となって支援をしていくとアピール、発信していくのは良いと思

う。

黒木：岡林氏の意見に賛成。啓蒙のきっかけとして新聞部コーナーを作らせてもらったらどうか。

森田：私の発言で先輩方の真剣な議論になったことはありがたいが、フワッと高知に窓口を置くという程度の提案だった。議事進行を妨げる議論となってしまう、議長さんに申し訳ない。

中城：幹事の中に高知支部担当を置くとか。

大町：高知が支部はひっかかる、高知は本部では。

横山：かつて、向陽プレスクラブが結成された時に、本部が勝手にやっているという意見もあった。やはり高知が支部ではまずいのでは？

中城：高知担当の幹事を置くこととする。細則第2条で活動内容をつめることにする。

藤宗：会則が余り活動内容を縛る方向になるとまずいので、準備会としては会則の中に具体的な事を書きたくなかった。会則で縛るのは意味がないので、できるだけあいまいにした方が、、、。

横山：会則は藤宗氏が言うようにあいまいな方が良い。

宮川：会則には細かい事を入れない事に賛成。細則に「母校の発展に貢献する活動」とあるので、そこで議論すべき。

中井：会則は個々に書いてあるとおりで良い。具体的な事は細則の方で検討したら良い。

中城：会則はこれでよろしいでしょうか？

この後、全員拍手で、「第1号議案：向陽プレスクラブ会則の制定」を可決。

第2号議案 会長の選挙

『準備会では、中城正堯氏を「新生向陽プレスクラブ」の会長に推薦したい』という岡林敏真よりの提案があり、全員賛成。これにより、会長は中城正堯氏と決定。

第3号議案 役員承認

藤宗：宮川隆彦氏、水田幹久氏、をこの候補者リストの中に追加したい。

追加者も含め役員候補者を全員承認。結果、役員は以下の通りとなる。

会計 中井興一 (46回)

幹事 岡林敏真(32回) 吉川順三(34回) 公文敏雄(35回) 森田隆博(37回) 黒木健司(37回) 岡林哲夫(40回) 藤宗俊一(42回)

永森裕子(44回) 宮川隆彦(46回) 水田幹久(48回)

第4号議案 向陽プレスクラブ細則制定の件

[年会費は、2000円、5年分まで前払いが可能。途中入会であっても一年分を徴収。入会希望者は口座に振り込む事とする。会の活動に関しては、向陽新聞の電子化作業やホームページの立ち上げ等を行っている。]との岡林敏真よりの報告の後、以下の様な活発な意見の交換があった。

大町：一つお願いしておきたい。会の目的はなるべくあいまいにしておくべき。何かをこちらから行動しようとか、行動をおこさないとかという。規制をすべきではない。ただし、母校の向陽新聞復活には皆期待している。

加賀野井：若い人に対するオルグが必要。高知の有志をつのる。我々にどんなことができるか考える。母校での出前講座とか。

永森：向陽プレスクラブの発生は東京なので、高知に学校があるから高知が本部ではなく、本部はやはり東京におくべき、無論高知での向陽プレスの集まりは必要。

吉川：17人集まったら17人の意見がある。ホームページに母校をどう思うかの意見を各自が出したらどうか。

岡林(幹)：なぜ新聞が土佐高にできたか？戦後、校舎が焼けてプールと便所しかなかった。世間に向かって物が言える世の中になって新聞部ができた。今の土佐高にも生徒達に物が言いたい、という雰囲気があれば新聞部が復活するだろう。周りで言っても無駄だろう。高知にいる人が多分呼びかけても無理だろう。会則はがちがちではなく、融通無碍に、我々は年一遍集まってその中から何か出てくればそれもよし、位の姿勢でどうか。

中城：2007年に生徒会が、向陽新聞を出したことがある。

岡林：その後三人の女性徒が新聞部の復活をしようとしたが、人が集まらなかったようだ。

大町：こちらから学校に働きかけは無理。

中城：細則はこの内容でよいか。

全員拍手で、細則制定の可決。

第5号議案 平成22年度活動計画案及び予算案の承認

藤宗より「ホームページの整備・運用」についての説明をする。その際「会員名簿には、入会登録した人のみを掲載。新聞部出身者名簿は公開しない。」という補足説明があった。

黒木：会員には新聞部出身者名簿をもらえないのか。

中城：新聞部出身者名簿は、個人情報保護の観点から公開はしないが、幹事会で保存管理を行う。

藤宗：ホームページ担当から。母校在校生便りに載せる人を募集している。ホームページは月一回更新する。

森田：新聞のバックナンバーのCDを作る、売るとかはどうか。

鶴和：ホームページは誰でも見られるのか。

藤宗：誰でも見られる。匿名は禁止。会員はニックネームでも良い。

水田：ハッカー対策はどうか。

藤宗：通常の対策をしている。

鶴和：ホームページを更新したら関東支部に通知して欲しい。そこからもリンクできるように連絡しておく。そうすれば誰かのぞく人もいるのではないのか。

岡林敏真より、年一回ホームページでの会報の発行を考えている事、予算案についての説明。会計年度は、4月1日より3月31日とする。

岡林幹雄よりの、口座は誰の名義か、法人口座を作るのはむずかしいのではないのか、との質問。口座は昔、向陽プレスクラブ名義で作ったものを使用する。

中井：会計より。2000円の会費を集められれば楽。会費と会員勧誘をよろしく。会費は、みづほ銀行渋谷支店に振り込んでもらう。その際みづほ銀行のクラブに入ると振り込み手数料はかからない。収入と支出から懇親会を別立てとして行きたいが、今年は困難なので一時的に流用することとする。

第5号議案を承認。

会長挨拶の後、午後2時45分に総会閉会。

8、懇親会

引き続き吉野の間で、中華円卓を二台囲み懇親会。若手より自己紹介。午後4時45分終了。

9、懇親会后、二階のレストランに幹事集合。

以下の件を決定、及び確認。

①顧問＝岡林幹雄氏が細木大麓氏と相談の上、就任を承諾するかどうかを中城氏に連絡する。

幹事長＝岡林哲夫

会計＝中井、名簿担当＝公文、ホームページ担当＝藤宗、

高知担当＝森田、黒木、宮川、若手担当＝水田、書記担当＝永森

②筆山次号の「向陽新聞に見る土佐中、土佐高の歩み」の執筆者は岡林敏真、その次は、吉川順一。

③東京で春、高知で秋に懇親会を開く。なるべく早く案内をして参加者をふやすことに努める。今年秋に懇親会を高知で開く。

④懇親会の案内は、主としてメールで行う。

⑤会計中井よりの報告、本日の懇親会は7000円の赤字。

以上